

令和6年度(2024年度) 第2回図書館協議会 議事録

と き： 令和7年2月27日(木)午後3時～5時
ところ： 真庭市立中央図書館 3階会議室
出席者： 清友久美子委員、庄司憲子委員、内藤貴嗣委員、廣瀬正明委員、松尾敏正委員、
山本信子委員、湯浅稔委員、吉野奈保子委員
欠席者： 森年雅子委員
事務局： 西川正(中央図書館長)、佐藤弘敏(図書館振興室室長)、上杉朋子(課長補佐)、
横山衣未(上級主事)

1. 開会

○事務局

定刻になりましたので始めます。

○館長挨拶

今年度の様々な取り組みを報告させていただき今後についてお話したいです。去年はライブラリーオブザイヤーをいただくことが出来ました。地区館含めての評価だと思っています。ありがとうございました。そだて会議でもさまざまな意見がでました。これからどう広げていくか、地区館含めて考えて行きたいです。

現状では人も増やせる状況ではない、これからどう見直していくかを5か年計画も含めて考えていきたい。まちづくりの観点からも考えていきたい。いくつも課題がある。みなさまのお知恵を拝借してよい意見がいただけたらと思っています。

2. 報告・協議

○委員長

今回の協議テーマは真庭市立図書館の運営状況について。資料をご覧ください。

報告①(資料1) 令和6年度 各館の重点取り組み予定・計画について

事務局より、資料1と取り組み内容を紹介するスライドにより中央館、地区館の令和6年度の活動を報告。

報告②(資料2) 実貸出利用率について

事務局より、資料2により説明。

報告③（資料3）市民、団体、学校との協働事業数と参加員数の推移
事務局より、資料3により説明。

○委員長

資料2, 3は数字的な報告の年度の途中版となっていますね。1～3の資料で確認したいところがありますか。

○委員

各館が地域に密着した取り組みをされていて良い環境だなと思います。各地区館の司書の定員を教えてください。

○事務局

地区館は任期付司書1人と司書の勤務の補助をする会計年度職員が館ごとに1～3人います。中央図書館は任期付司書が5人、正職員司書が2人と会計年度職員が4名です。

○委員

会計年度職員にも定員がありますか。

○事務局

定員という考え方ではなく、館によって、司書の休みの時に代わりに出勤する場合と半日司書の補助で出勤してもらう場合とがあり、必要な時間数で人数が決まってくるようになる。

○委員

少ないなかで良く運営されていますね。

○委員

司書の定員に変化はありますか。

○事務局

予定はありません。

○委員

任期付き職員は3年更新、会計年度は1年更新ですか。

○事務局

そうです。

○委員

少ない人数でよくやられている。勝山小学校の1日図書館運営イベントの時に館長が、「真庭の図書館だから出来るよね」と言われていました。やはり都会では難しいのだと思う。地域の方にもあたたかく見守っていただけた。都会にはない地域の良さが出たと思う。勝山では子ども向けのイベントが少ないと聞くので、こういった取り組みがこれからもできるといいですね。今まで図書館に訪れたことのないご家族もたくさん参加されていて良い機会になったのではと思いました。

○館長

中央図書館には勝山の図書館という役割もあります。地域で一緒にやりましょうというスタンスです。最近では「マチメク」というイベントで地域とコラボして図書館の本を使ってウォークラリーができた。地域の方と一緒に何かしていくというのがみらい計画でうたっている「地域自治の拠点」になるということでもあるのかなと思っています。

○委員長

報告4について説明をお願いします。

報告④（資料4）図書館そだて会議の報告

事務局より資料4により説明。

○委員長

事前に資料いただいておりますが、各館の意見がとても面白いのでここでも少し読み込む時間を取ります。その後、ご意見をお願いします。

○委員

取り組みの数々、大変感心しました。図書館の皆さんの行動力に敬服しております。中学校での取り組みでいいますと、朝読をしていますので本には親しんでいます。図書館とはあまり繋がっていないのかなと感じます。学校司書に聞いても、オンラインで本を予約している子も減っているようです。実際に蒜山図書館に足を運んでいるのかもしれない。やはり

中学生が本を読んでないのは課題だと思いました。図書委員など、うまく図書館と交流して連携することで読書につながるといいなと思いながら聞きました。

○委員

取り組みについて詳しくわかりました。そだて会議で出された意見をしっかり実行されていて勉強になりました。それぞれの館に特色があることもよくわかりました。樫邑小は図書館からは遠いので勝山小とは違った連携ができるといいなと思っています。樫邑小では図書館見学で中央図書館に来させていただいていた時にバスの手配をしていただけてありがたいです。これからも貸出数に捉われずに運営して行ってほしいです。そだて会議の記録を読んでいると目につくのが、移動手段がないから行けないというものでした。地域に出てきて欲しいという意見もあったと思います。学校にも出張してもらい、イベントをしてくださるのもいいのかなと思いました。とはいえ、図書館が近くにない子どもたちは全く図書館に行けないということもなく、保護者の方と図書館に行ってイベントに参加しているようです。

○委員

先日はじめて落合のそだて会議に参加しました。落合には落合の特色がありました。落合の場合は10年以上ブックサロン（本を紹介しあうサークル）というものがあって驚いた。しかし10年もしているのに、よく図書館を利用する私も、存在を知らなかったことに驚きました。せっかくやっているのだから広げていけるといいですね。

○委員

落合のそだて会議の記録をよんでいて、高校生が来てくれることに驚きました。音楽がかかっていたら入りやすいという高校生からの意見について、うるさいと思う人もいるかもしれないので慎重にというふうに返されていますが、せっかく出た意見なのだから、とりあえず試しにやってみることも大切なのではと思いました。高校生と一緒に試行錯誤しながらやってみるというスタンスも大切にしてほしいと思いました。

○委員

落合そだて会議には先生が高校生を連れてきていましたよ。そして先生がその場にはいない他の子の意見も報告されていました。学校図書館との連携についての話題になったときに、小中学校とは連携しているが高校とは連携していないという意見が出ていました。真庭高校にも司書がいるので人的に連携したらいいですねという話になっていました。高校でもどうやって本を読んでもらおうかという悩んでいて先生にとっても関心のある内容だったようです。真庭高校には看護科があるので医療の図書が充実しているという話も聞きました。

○委員

とても気づきがありました。美甘図書館でのそだて会議の記録に「図書館で小学生と話ができてうれしい」という意見がありました。ご高齢の方が小学生と交わる場というのは大切な交流になりますね。そういう交わりの場があるのが大切なんだろうなと思いました。以前2022年度の図書館協議会で、真庭市の図書館も北欧の図書館の取り組みを参考にしようという話が出ていました。あのヴィジョンがすごく素敵でこういった視点をもっと市民に広げていけるといいですね。

今、テスト期間中で高校生が中央図書館の学習室を自由に使っていますが、落合図書館では入り口で記名しないとイケないと、これがいやだから使わないという話を聞いています。

○委員

1年間で取り組みをたくさんしていてすごいです。中央図書館には、たくさん司書がいるのに地区館は数名で運営されていて、それでも本を素敵に飾ってあったり読みやすいように気を配っている。どうやってされているんだろうと驚きました。

落合図書館でのお飾りをつくるイベントの紹介がありましたが、サポートあいに来られる家族ともお飾りをつくったりしています。今は自分たちでつくらなくなっているので、図書館で教えてくださっていいなと思いました。地区ごとの個性が出てきていいですね。私は久世図書館で読み聞かせをしています。久世図書館のテラスを使ってゆっくりできるといいなと思います。落合図書館は入り口が狭いせいか、視線を感じて少し入りづらいなと思っています。

○委員

そもそもこの協議会は何をするのかということですが館長から諮問を受けて応じる。意見を述べるということだと思います。先ほどの報告を受けて色々お話をさせてもらいます。館長が今後新たな計画を立てられたりする、その辺のご意向をお話いただきたいと思った。そだて会議の記録を見ていると、色々な意見がありますが、ないものねだりをする人がたくさんできます。しかし、できている所を見てあげてほしいなと思います。異業種や各地区の団体とコラボしてイベントが盛んに行われているのを嬉しく思います。競うのではなくオール真庭で少しでも良くなっていけるようなマネジメントをしていただけたらいいなと思います。

社会教育委員という立場もふまえて言わせてもらおうと、真庭市が弱いのは公民館活動だと思っています。学校を離れると地域とのつながりが極端に減ってしまう。参画していく人だけがどんどん色々な人と交わっているのが現状だと思うんです。しかし公民館をよくしましょうと言ったところで、公民館がどこにあるのかも分からない状態。そんな中で図書館が機能していることはとても大切。ただ本来の業務を逸脱したオーバーワークもあると思う。

ぜひとも各振興局で社会教育主事の方や学んでいる職員と、そういった話ができるようになり図書館と横の連携があるといいのではと思いました。

私の会社の横に修徳館というところがあります。勝高生は名前を書いたら使える。久世中も交渉して使えるようになった。うちの子どもも受験生で、修徳館へ行って勉強するようになった。修徳館が休みの日にはどうするのかなど思っていたら、久世図書館に行って勉強してくれるようになった。受験も無事にすんで、ありがたいです。

○委員長

各館のそだて会議で一番よく出ていた意見として図書館まで足を運ぶ方法がないということがあった。地域が広い真庭市の特徴だなと思った。これを図書館としてどこまで支援できるか。また、そだて会議メンバーが固定化されているような気がするという意見もあった。同じ方の意見ばかりになってしまうのはよくないので、イベントのあるときにかしこまらず気軽に意見が交換し合えるような機会を持つことができたらいいのでは。各館が限られた人数の中で出された課題を解決できるのかは難しいと思うが、これからできる計画の中でそだて会議のご意見が生かされるといいなと思いました。報告と協議は以上で終了です。

○事務局

みなさん貴重なご意見ありがとうございました。

3. そのほか

○事務局

何かご意見ありますか。

○委員

新しい地域おこし協力隊の方で図書館に関わられる方がいると思うんですが、どのように関わっている方が教えてください。

○館長

提案型の地域おこし協力隊として応募され、就任後に図書館と関わっていきたいとおっしゃっている方です。図書館で何かやりたいと相談があれば一緒にやっていきたいと思っています。

○委員

オフィシャルではなく地域に関わっていくためのコンテンツの一つと考えていただけれ

ばと思う。北房図書館での先日の講座のように、協力できるイベントがあれば関わっていき
たいという方向で動かれている。まちづくりの活動の中の一つの場として図書館に関わる
という認識です。

○室長

その他にご意見はございますか。

○館長

お配りした資料は、Library of the Year2024 の授賞式の際に、会場で配布したものです
(当日資料)。図書館で市民と一緒にいろいろな試みをしていることが評価されたわけ
ですが、この資料のなかの表面中段の囲み記事をご覧ください。学校司書の K さんが公共図
書館との連携で、より豊かな読書環境を子どもたちに届けることができるようになったと書
いてくれています。

図書館の活動は、子どもたちや市民への図書にかかわる日々の地道なサービスが基本に
なっています。同じ意味合いで、裏面の一番下の美甘図書館の記事もぜひお読みください。
ホームページの本の紹介欄 (pick up) に掲載したものです。司書とのやりとりを通して子
どもたちが本に出会っていく様子、そして、図書館が子どもたちにとって居場所になっ
ている様子が描かれています。

図書館は、答えがある場所のように思われていますが、「応え」がある場所でありたい
と考えています。何かを調べたい、相談したいという声に「応え」る。何かしたい人が、こ
こに相談したら、一緒に考えてくれるんだという場所でありがちなと思っています。その意味
で、図書館はやはり市民によるまちづくりを支える社会教育の施設です。ゆえに、公民館と
の連携や役割分担など、真庭市のまちづくりの中での図書館の位置づけをより明確にして
いく必要があると考えています。これは来年度に予定している五カ年計画の改訂を通じて、
みなさんと議論していきたいと思えます。どうぞよろしくおねがいたします。

○事務局

これから来年度の計画の見直しについて方向性を決めていきたいと思っています。来年
度もお力添えください。ありがとうございました。

以上